

令和6年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名 八千代町 （都道府県：茨城県）

1. 当該地域の情報（令和7年2月現在）

地域の課題	本町では、町民の約10%が外国人町民となっているが、日本語教育推進のみならず“多文化共生”課題に関する施策もこれまで行われていない状況であった。 外国人町民の家族滞在者の増加は、今後も恒久的に続くものと想定される。どのような在留資格・就労環境・家庭環境であっても個々のレベルやニーズに合った日本語学習ができるよう、学習の場を設けることが課題である。
在住外国人数 外国人比率	【在住外国人数】2,064人 【外国人比率】9.79%
在住外国人の状況	【主な国籍と人数】※上位10件 1位:ベトナム663人 2位:インドネシア425人 3位:スリランカ211人 4位中国183人 5位:ラオス114人 6位フィリピン108人 7位:パキスタン83人 8位:タイ81人 9位:カンボジア64人 10位:ミャンマー52人 【在留資格】※上位10件 1位:技能実習2号口687人 2位:特定技能1号509人 3位:技・人・国164人 4位:技能実習1号口154人 5位:家族滞在124人 6位:永住者120人 7位:特定活動99人 8位:定住者53人 9位:経営・管理50人 10位:技能実習3号口44人 【滞在年数・在留期間などの状況】 技能実習生が全体の約4割を占めている。技能実習生は従前より多く占めているが、近年、家族滞在や技・人・国が増加傾向となっている。
在住外国人の日本語教育の現状	地域おこし協力隊日本語支援担当と地域のボランティアとで立ち上げた「YIFA日本語教室」で「外国人の居場所作り」を進めており、すでに定期的な活動となっている。しかし、日本語をゼロから学びたいという外国人のリクエストには、ボランティアの力のみで頼ることには限界があり、対応が難しい状況となっている。 また、外国人児童生徒の増加も著しく、町内7校からは学童保育時間の日本語支援を望む声が上がっている等（アンケート結果より）、外国人町民の子どもに対する支援も十分でないため、学習支援の体制を見直す必要がある。 これから、様々なリクエストへの対応やあらゆる世代の学習支援の強化を行い、外国人町民と日本人町民が円滑なコミュニケーションがとれる状況をつくり出せる施策を検討し、官民一体で地域日本語教育の体制の整備を進める。

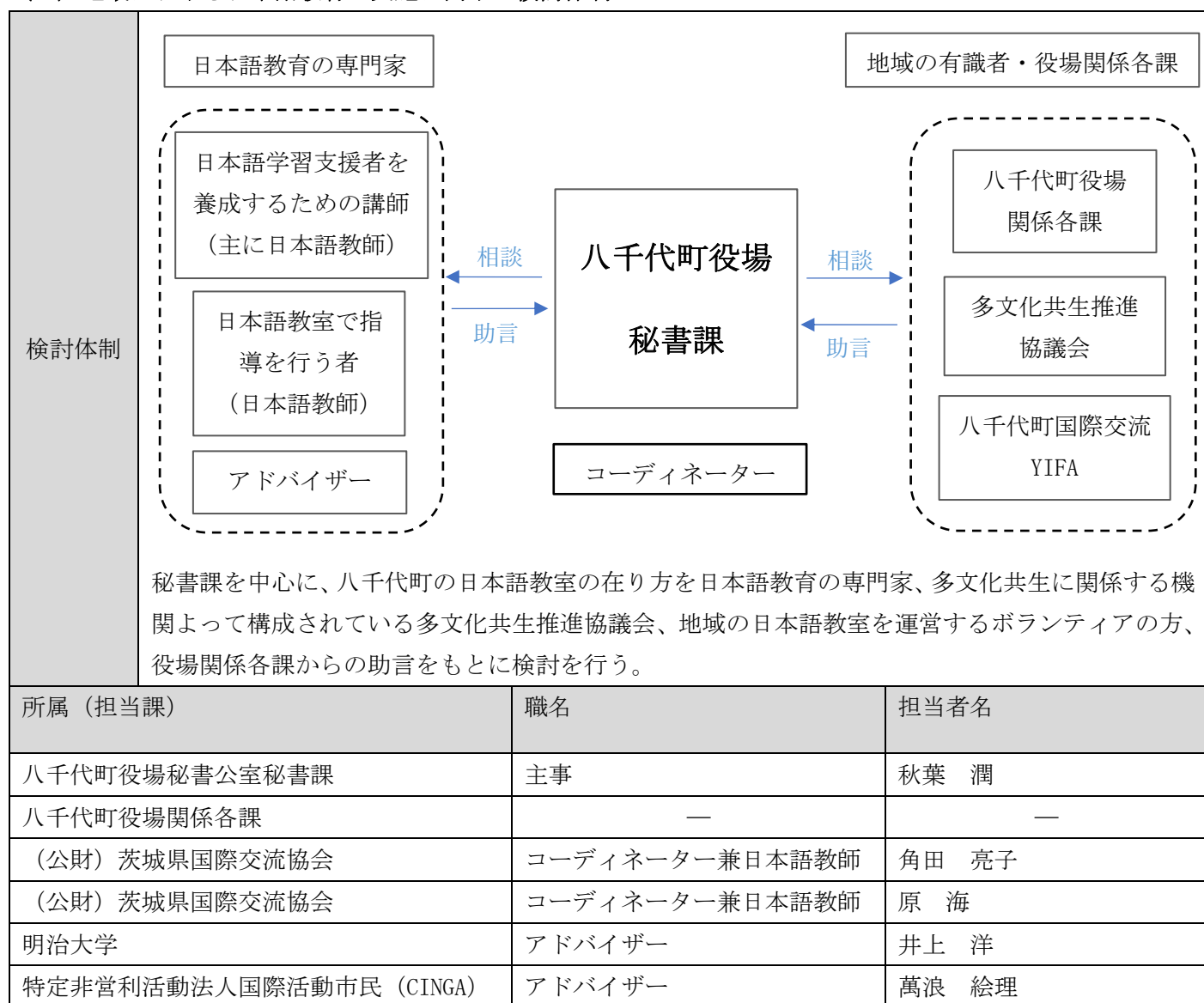
2. 事業の内容

本プログラム取組年数	2年目
事業の目的	日本語教育を通して外国人がいきいきと生活や就労ができるようにするとともに、地域住民と交流できる機会と場の提供を図る。更に、対等な人間関係の構築を目標に、全町民が安心して健全な生活を持続的に送れるまちづくりの一端を担う、八千代町にふさわしい日本語教室を創設する。
事業の概要	本プログラム2年目においては、町主催の「日本語教室」を開講し、外国人からのニーズに応えられる体制を整え、「YIFA日本語教室」との連携を促進し、日本語の習得だけでなく、地域住民との交流機会を創出する。 「町主催日本語教室」の開講に向けて、まず、コーディネーターと日本語教師の発掘と育成を行い、コーディネーターを中心に内容等を検討し、日本語教師による外国人のニーズに合った日本語教室を開講する。また、外国人のニーズに合った教室を開講するだけでなく、「YIFA日本語教室」と連携がうまくできる仕組みも検討する。そして、日本語の習得を基本としながらも、地域住民との繋がりを意識した日本語教室を目指していく。事業終了後も安定的に日本語教室が運営できるようにコーディネーター等の人材確保に努めていく。
事業の対象期間	令和6年4月～令和7年3月

前年度の実績 (2年目以降の団体のみ記載)	本プログラム1年目においては、ニーズ調査、先進地視察、コンセプト検討等教室開設に向けて準備の1年となった。コンセプト決定に向け、ニーズ調査や先進地視察を行い、地域住民の現状把握、様々な先進地の事例を知る等コンセプトの検討材料となった。コンセプトについては、日本語を勉強したことがない方を対象とした基礎(ゼロ)から日本語を教える教室と、地域との交流をメインにした居場所づくり教室、2つの教室を連携しながら進めていく方針となった。2年目においては、コンセプトに基づいた日本語教室の試行を進めていく。			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	角田 亮子	(公財) 茨城県国際交流協会	地域日本語教育コーディネーター	日本語教室の企画・運営 会議等の連絡・調整
	原 海	(公財) 茨城県国際交流協会	地域日本語教育コーディネーター	日本語教室の企画・運営 会議等の連絡・調整
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	井上 洋	明治大学	兼任講師	継続 ・新規(2年目)
	萬浪 絵理	CINGA	理事	継続 ・新規(2年目)
	仙波 美哉子	(公財) 茨城県国際交流協会	地域日本語教育推進員	継続 ・新規(2年目)

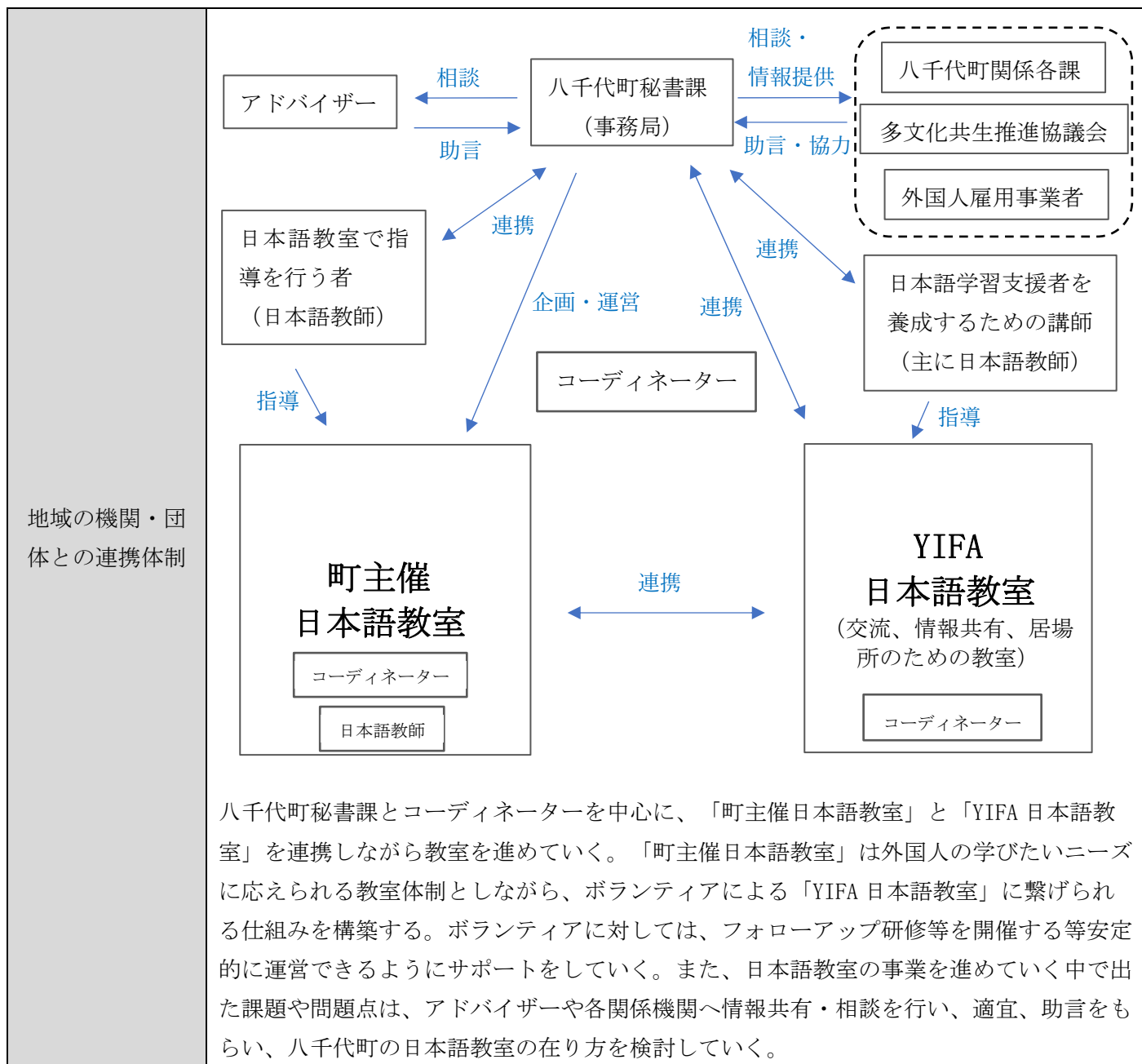
3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1) 地域における日本語教育の実施に向けた検討体制



(公財) 茨城県国際交流協会	アドバイザー	仙波 美哉子
古河市国際交流協会	日本語教師	八巻 紀子
古河市総和南中学校	日本語教師	本田 亜紀子
八千代町国際交流 YIFA	会長	関 輝義

(2) 日本語教室の実施に向けた事業運営体制図



組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名
八千代町	秘書課	主事	秋葉 潤
(公財) 茨城県国際交流協会	—	コーディネーター兼日本語講師	角田 亮子
(公財) 茨城県国際交流協会	—	コーディネーター兼日本語講師	原 海
明治大学	—	アドバイザー	井上 洋
NPO 法人国際活動市民中心	—	アドバイザー	萬浪 絵理
(公財) 茨城県国際交流協会	—	アドバイザー	仙波 美哉子
八千代町	関係各課	—	—
多文化共生推進協議会	—	—	—

外国人雇用事業者	—	—	—
古河市国際交流協会	—	日本語教師	八巻 紀子
古河市総和南中学校	—	日本語教師	本田 亜紀子
八千代町国際交流 YIFA	—	会長	関 輝義

4. 具体的な取組内容

(1) 年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの 主な活動	アドバイザーによる 助言・指導
令和6年 4月			
令和6年 5月	・事業計画書作成 ・「はじめての日本語教室」(町主催)の内容検討 ・コーディネーター発掘 ・日本語教師発掘		・事業計画について検討・助言
令和6年 6月	・「はじめての日本語教室」の内容検討 ・コーディネーター発掘 ・日本語教師発掘		
令和6年 7月	・「はじめての日本語教室」の内容検討 ・コーディネーター会議(7月8日) ・日本語教師発掘	・「はじめての日本語教室」の企画・調整 ・コーディネーター会議出席 ・日本語教師との連絡・調整	
令和6年 8月	・「はじめての日本語教室」の内容検討 ・コーディネーター会議(8月29日) ・コーディネーター育成	・「はじめての日本語教室」の企画・調整 ・コーディネーター会議出席 ・コーディネーター研修受講(文部科学省主催)	
令和6年 9月	・「はじめての日本語教室」の内容検討 ・コーディネーター会議(9月30日)	・「はじめての日本語教室」の企画・調整 ・コーディネーター会議出席	・2年目の事業計画の確認 ・進捗に関する検討・提案
令和6年 10月	★「はじめての日本語教室」の開催(10～11月) ・アドバイザー・コーディネーター会議(10月4日)	・「はじめての日本語教室」の運営・調整 ・アドバイザー・コーディネーター会議出席	・アドバイザー・コーディネーター会議(オンライン) 「はじめての日本語教室」について助言
令和6年 11月	★「はじめての日本語教室」の開催(10～11月) ・コーディネーター育成	・「はじめての日本語教室」の運営・調整 ・コーディネーター研修受講(文部科学省主催)	・「はじめての日本語教室」の見学及び助言
令和6年 12月	・「はじめての日本語教室」振り返りミーティング(12月7日) ・アドバイザー・コーディネーター会議(12月12日)	・「はじめての日本語教室」振り返りミーティング参加 ・アドバイザー・コーディネーター会議参加	・アドバイザー・コーディネーター会議(オンライン) 「はじめての日本語教室」について助言
令和7年 1月	・本年度振り返り及び次年度教室内容検討	・本年度振り返り及び次年度教室内容検討	
令和7年 2月	・コーディネーター会議(2月18日) ・アドバイザー・コーディネーター会議(2月27日) ・コーディネーター育成	・コーディネーター会議参加 ・アドバイザー・コーディネーター会議参加 ・コーディネーター研修受講(文部科学省主催)	・アドバイザー・コーディネーター会議(オンライン)

			今年度の振返り及び次年度の日本語教室について助言
令和 7 年 3 月	・本年度振返り及び次年度事業計画検討	・本年度振返り及び次年度事業計画検討	

(2) 立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称	はじめての日本語教室						
外国人参加者について	〔国籍〕 スリランカ 5 名、ネパール 1 名 〔属性〕 家族滞在または技術・人文知識・国際業務等が主な対象						
参加者数 (内 外国人数)	外国人参加者 6 名 (平均 5 名/1 回) 支援者 8 名 (平均 3 名/1 回) (日本語指導者 4 名、サポーター4 名 ※すべて日本人)						
開催時間数	総時間 27 時間			内訳 2 時間 × 1 回 (オリエンテーション) 2.5 時間 × 10 回 (日本語教室)			
開催頻度	1 コース/年						
目標	ボランティアによる地域日本語教室 (YIFA 日本語教室) での学習に移行することを前提とし、生活に必要な最低限の日本語習得を目指す。						
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	2024 年 10 月 5 日(土) 10:00～12:00	2	八千代町 中央公民館	4	オリエンテーション	・日本語レベルチェック ・教室参加のルール	日本語指導者 4 名 サポーター1 名
2	2024 年 10 月 17 日(木) 10:00～12:30	2.5	八千代町 中央公民館	6	生活に必要な日本語①	・ひらがな(あ行～さ行) ・日常のあいさつ ・自己紹介	日本語指導者 2 名
3	2024 年 10 月 19 日(土) 10:00～12:30	2.5	八千代町 中央公民館	6	生活に必要な日本語②	・ひらがな(た行～は行) ・自己紹介 ・わたしは〇〇が好き ・数字 (0～100) ・緊急の電話番号	日本語指導者 2 名
4	2024 年 10 月 24 日(木) 10:00～12:30	2.5	八千代町 中央公民館	6	生活に必要な日本語③	・ひらがな(ま行～わ行) ・買い物 ・数字 (101～100 万)	日本語指導者 1 名
5	2024 年 10 月 26 日(土) 10:00～12:30	2.5	八千代町 中央公民館	5	生活に必要な日本語④	・ひらがな(拗音・促音・長音) ・何年・何月・何日	日本語指導者 2 名
6	2024 年 10 月 31 日(木) 10:00～12:30	2.5	八千代町 中央公民館	5	生活に必要な日本語⑤	・ひらがな(濁音・半濁音) ・ひらがな簡単テスト ・何時・何分 ・わたしの一日	日本語指導者 1 名 サポーター1 名
7	2024 年 11 月 2 日(土) 10:00～12:30	2.5	八千代町 中央公民館	4	生活に必要な日本語⑥	・カタカナ(ア行～サ行) ・わたしのたいせつなひと (ファミリーツリー, ペット)	日本語指導者 2 名
8	2024 年 11 月 7 日(木) 10:00～12:30	2.5	八千代町 中央公民館	5	生活に必要な日本語⑦	・カタカナ(タ行～ハ行) ・おなかがすきました (スーパーチャシ, メニュー)	日本語指導者 1 名

9	2024 年 11 月 9 日(土) 10:00~12:30	2.5	八千代町 中央公民館	5	生活に必要な日 本語⑧	・カタカナ(マ行~ワ行) ・げんきですか(薬の種 類、飲み方)	日本語指導者 1 名
10	2024 年 11 月 14 日(木) 10:00~12:30	2.5	八千代町 中央公民館	3	生活に必要な日 本語⑨	・カタカナ(拗音・促音・ 長音) ・警察による交通・防災 講話 ・役場防災担当よりハザ ードマップの見方	日本語指導者 2 名 サポーター 2 名
11	2024 年 11 月 16 日(土) 10:00~12:30	2.5	八千代町 中央公民館	5	生活に必要な日 本語⑩	・カタカナ(濁音・半濁 音) ・カタカナ簡単テスト ・役場環境対策担当より ごみの分別等の説明	日本語指導者 4 名 サポーター 4 名

【主な活動】



10 月 17 日 ひらがな学習



11 月 14 日 警察による交通講話



11 月 16 日 ごみの分別について

教室の立ち上げ に係る問題とそ の対応策	【問題】 外国人参加者（学習者）が少ない
	【対応策】 ・参加しやすい時間や回数の見直し ・周知を開始するタイミングを早める ・役場窓口（転入等に関わる部署）での周知 ・教育委員会との連携を強化し、学校関係（保護者）への周知 ・地域にいる各国のキーパーソンへの協力依頼

（３）その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
やちおん 2024（野外音楽 フェス@八千代町） （本事業以外の関連する 取組）	令和 6 年 9 月 29 日 10:00~19:00 (9 時間)	八千代町で開催された野外音楽フェスに八千代町国際交流 YIFA（地域日本語教室を運営しているボランティア団体） が国際交流関係のブースを出展した。そこで、ボランティ アスタッフに協力してもらいながら、ブースに来た外国人 に日本語教室のチラシを配布する等周知活動を行った。

【主な活動】



9 月 29 日 イベント出展ブース

5. 今年度事業全体について

進捗状況	2年目においては、コーディネーターと日本語教師の発掘を行い、コーディネーターを中心に内容等を検討し、1年目で決定したコンセプトに基づいた、町主催の教室（はじめての日本語教室）を試行的に開催することができた。また、町主催の教室で学習が終わるのではなく、ボランティアによる地域日本語教室（YIFA 日本語教室）へ学習者を繋ぐ等地域との連携を進めることができた。
事業推進にあたり問題点と対応策	【問題点】 ・会議や教室の開催が当初の予定より遅れてしまったこと ・町民や企業、行政関係者等に向けた日本語教室の重要性の共有及び啓発のための取組ができなかったこと ・「はじめての日本語教室」（町主催）の集客や周知が不十分であったこと ・「YIFA 日本語教室」（ボランティアによる日本語教室）に携わるボランティアスタッフの増員に繋がる取組や運営に対するサポートが不十分であったこと ・各関係部署や関係機関との連携が不足していたこと 【対応策】 ・翌年度が始まるまでに、コーディネーターや日本語教師等の人材の確保を行い、計画や方向性に対する関係者の共通認識をもち、翌年度の事業がスムーズにいくようにする。 ・町民に対して、地域日本語教育アドバイザーによる講演会等の実施。 ・外国人を雇用する企業、監理団体、外国人施策を実施する行政等に対して、協議会（多文化共生推進協議会等）を通して、外国人の現状を把握するとともに、地域日本語教育の重要性を共有する取組を実施する。 ・「はじめての日本語教室」（町主催）については、学習者からの満足度が高い教室内容となったものの、想定の定員を下回る学習者数となってしまうため、開催時間や期間等の見直しを行い、学習者の増員を図るとともに、コーディネーターを中心に「YIFA 日本語教室」へつなげることを意識したカリキュラムや環境づくりを一層強化する。周知については、ポスター、チラシ配布だけでなく、転入手続きの際に積極的に教室の案内をし、地域で活躍しているネイティブサポーター等に協力を仰ぐようにする。 ・「YIFA 日本語教室」は定期的な開催ができており、学習者の参加も安定している状況である。しかし、今後、学習者の増加や支援者の減員があった際には、現在の体制では学習サポートや幅広い地域住民との交流機会の創出は厳しい状況になってしまう。対策としては、早急に支援者の増員が必要となり、そのためには、「日本語教室の活動内容や、その意義」の周知、「支援者の発掘及び養成」を目的とした日本語学習支援者養成講座を行う。また、「YIFA 日本語教室」との連携を強化するため、コーディネーターの活動の幅を広げるとともに、町広報誌等で日本語教室の活動状況や重要性を周知し、日本語教室に興味をもってもらえる機会づくりを行う。 ・入管法の改正等に伴い、今後、就労形態の変化や家族帯同が可能になる等の変化に対応できる体制を整えるため、首長部局だけでなく、特に町教育委員会との連携を強化する。また、企業とも連携が必要となるため、意見交換や相談ができる関係性を構築していく。
成果	試行的ではあるがコンセプトに基づいた日本語教室（はじめての日本語教室）を開催できたことが大きな成果である。 内容検討、指導者の確保、スケジュール調整等、教室開催するまでの準備が非常に難しいことであると気づくことができた。 また、アドバイザーからの助言を基に、コーディネーターが中心となり、カリキュラム作成、教室運営等、日本語教育の体制整備を1年目より大きく進めることができた。
地域の関係者との連携による効果	「YIFA 日本語教室」のスタッフの方にも「はじめての日本語教室」に参加してもらい、学習者との顔つなぎや交流をすることで地域の日本語教室へスムーズに移行ができた。
コーディネーターの主な活動	① 日本語教室開設及び運営のための調整(141H) ② アドバイザー会議(4.5H) ③ コーディネーター会議(10H) ④ その他(22H) （具体的な内容：事業計画書等検討，【文部科学省】地域日本語教育コーディネーター研修受講）

アドバイザーの 主な助言	【事業全体について】 ・本事業は教室を実施することが目的ではなく、継続的・安定的に実施するための環境づくりがより重要である。 ・「はじめての日本語教室」の運営がこの事業の目的ではなく、どのように「YIFA 日本語教室」につなげていくかが重要である。コーディネーターの関わり方を確立していくことも今後の課題である。 ・質量両面でレベルアップが図られるには、これまで行われていない町民（日本人、外国籍住民）や外国籍住民を労働者として雇用している事業所への具体的な働きかけが必要である。 【教室内容について】 ・講話者との入念な打合せを設けること。 ・基礎日本語教室の中で日本語学習支援者に入ってもらうときには、始まる前に教室での役割を共有しておく。 ・基礎日本語教室での日本語教師の役割をもう少し明確にできたら良い。
今後の課題	外国人町民を含む全町民が安心して健全な生活を持続的に行えること、外国人町民の日本語レベルの向上、外国人町民と日本人町民とが同じ地域の住民としてつながり続けることを目標とし、ゼロ初級ベースの学習者を対象とした「はじめての日本語教室」（町主催）と地域住民との交流を目的とした「YIFA 日本語教室」の2つの教室を連携させながら継続していく。 上記を進めるために「基盤づくり」「人材及び予算の確保」が課題となる。 「基盤づくり」については、事業を継続していける体制を整える必要があるため、基礎となる町民や企業、行政関係者等に向けた日本語教室の重要性の共有及び啓発のための取組を行い、町全体の日本語教室に対する共通認識を深める。 「人材」については、コーディネーターの役割が特に重要となるため、コーディネーターを常に確保できる環境を整える。 「予算」については、プログラム期間中の経費や開催実績を参考に、日本語教室の必要性を訴え、町の予算化を進める。
今後の予定	・外国人を雇用する企業、監理団体、外国人施策を実施する行政等に対して、協議会（多文化共生推進協議会等）を通して、外国人の現状を把握するとともに、地域日本語教育の重要性を共有する取組の実施 ・町民に対して、地域日本語教育アドバイザーによる講演会等の開催 ・日本語教室の活動内容や、その意義の周知、日本語学習支援者の発掘及び養成を目的としたボランティア養成講座の実施 ・YIFA との定期的な意見交換で出たリクエスト等を基に、普段の活動する上でのお悩み解消を目的に YIFA ボランティアフォローアップ研修の開催 ・「YIFA 日本語教室」（ボランティアによる地域日本語教室）の開催 ・「はじめての日本語教室」（町主催）の開催

本件担当： 八千代町秘書課地域協働係